

行政報告

湯沢町長
上村 清隆

昨年の12月下旬から降り続いた記録的な豪雪により、役場敷地内の積雪量も1月28日には今シーズン最大となる324cmに達しました。

12月24日午前10時45分に、「湯沢町豪雪災害警戒本部」を設置し警戒等に当たってまいりましたが、12月29日に積雪量が270cmを超えたことや更なる降雪が予想されたことから、1月3日午後10時30分に「湯沢町豪雪災害対策本部（本部長湯沢町長）」に改組し、雪崩等の災害に対し警戒をさらに強め、住民生活の安全確保や事

故防止などに最善の努力を行ってまいりました。

そして1月6日には災害救助法が適用され、陸上自衛隊や県内各地の消防団から力強いご支援を受け、公共施設や要援護世帯等の除雪作業にご尽力いただきました。また、建設湯沢会を始め、シルバー人材センターや一般ボランティア等の多くの皆様からもご尽力をいただき、改めて感謝とお礼を申し上げます。また、除雪作業中に屋根からの転落などで重軽傷を負われた方々に対し心からお見舞いを申し上げます。

建物の被害では、家屋等の損壊として数件の被害報告を受けておりますが、これまで大きな災害がなく安堵いたしております。

また、内閣府防災担当大臣、総務大臣、国土交通大臣、地元選出国會議員に対し、財政支援の要望書を提出いたしました。そして県内外の多くの方々や企業から見舞金をいただき、感謝をいたしておりますが、この見舞金の使途といたしましたは、要援護世帯に対する支援等に支出させていただきます。たいと思います。

例年にならない降雪により、多くのスキー場では予定通りにオープンでき、幸先の良いシーズンを迎えることができました。そこで、中越大震災による風評被害で激減した昨シーズンへの入り込み客数に比べ、今シーズンは大幅

な増加が見込めると期待しておりますが、この度の記録的な豪雪による雪崩の発生や各交通機関の混乱の影響、また連日のように伝えられる報道過多が災いし、正月以降の入り込み客数は伸び悩み、期待を裏切る結果となりました。

この事態を重く受け止め、1月27日には泉田県知事と、2月3日には湯沢町観光協会及び湯沢町議会の総勢32名で首都圏の旅行代理店本社や営業所90店舗を訪問し、

豪雪も落ち着き例年のような状況にあることをアピールし、今後の送客のお願いを申し上げてきたところで

あります。

宣伝事業では10月に所沢市民フェスタ、また、11月には新潟ふるさと村や東京ウインターリゾートの各イベントに参加いたしました。

そして、湯沢町制50周年事業の一環で12月に湯沢カルチャーセンターで行われた「なんでも鑑定団」のテレビ収録には、300人の観客がありました。



自衛隊による除雪作業（三国小学校）